

「持続可能な農業を目指して」

河野 海十 (33歳) Iターン
(松山市)



1 就農の動機・理由

食の安全や身体への影響を考えるようになったことがきっかけで農業に関心を持った。農薬に頼らず自然の力を活かした栽培に価値を感じ、無農薬での栽培を目指して就農した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和5年)	現在の経営 (令和7年)	将来の経営 (令和10年)
労働力	男1人(本人) パート5人	男1人(本人) パート5人	男1人(本人) パート5人
経営耕地	水田 60 a 畑 10 a	水田 200 a 畑 30 a	水田 700 a 畑 50 a
経営内容	水稻 60 a タマネギ 10 a	水稻 200 a 人参 5 a ニンニク 5 a 里芋 3 a	水稻 700 a 人参 40 a ニンニク 5 a 里芋 5 a

○農業用施設

農業用倉庫 2棟
農業用倉庫 1棟

○主要農業機械

トラクター 2台
田植え機 1台
コンバイン 1台
除草機 1台
畦塗り機 1台
乾燥機 2台
籾摺り機 1台
選別機 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 兵庫県三木市
職歴 農業法人勤務
就農研修歴

(株) パーソナルアシスタント青空
(R元.5月～R4.12月)

うかのわ (R5.1月～R5.3月)

就農年月 令和5年4月

(2) 就農時の思い

米農家は扱う機械が多く、格納する倉庫も必要であったため、資金面で不安があった。その反面、新たな挑戦にワクワクしていた。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

有機栽培農家の仲間が多かったため、先輩からいろいろアドバイスを聞いて技術を身に付けていった。

(2) 資金の準備

就農時は、資金の準備にとっても苦労した。必要な機械が多すぎて、手持ちの資金では全く足りなかった。補助制度の活用に加え、お米のオーナー制などの活用で資金繰りを行うことができた。

(3) 農地・住宅の確保

妻の実家が中山間地域にあり、そこを拠点に農地の面積を広げていった。

就農した地域の猟師さんに紹介していただいた空き家に住むことができたため、住まいにも困ることはなかった。

(4) その他苦労したこと

水稲栽培の拠点が中山間地域にあるため、害獣被害や法面の草刈りなどで苦労している。新規参入だったので、機械のあてもなく、必要な機械をすぐ集めることができなかった。

5 農業経営の特徴

夏はお米、冬は人参を栽培することで、年間を通じて安定した収益がある。有機栽培農家の仲間が多く、機械のトラブルなどが起きても、お互い助け合える環境があり、農地拡大にも意欲的に取り組むことができる。

6 これからの夢

水稲は2haほどの作付面積ではあるが、今後は5ha、10haと面積拡大を図り、いずれは農業法人を立ち上げたい。有機栽培農家を増やし、作物を量産できる体制を整え、愛媛県内の農地を守り続けていきたい。

7 成功したキーポイント

新規参入のため、はじめの頃は農地の拡大が思うようにいかなかったが、お借りした農地を大切に管理することで、次第にご近所の方々が支援して下さるようになり、多方面から農地の紹介を受けることができた。焦らず、目の前の仕事に没頭したことで、結果として良い方向に進んだと思う。

農機具類は、なるべく中古で購入したため、他の必要経費に回すことができ、作業効率も年々上げることができたと思う。

8 就農を目指す方へのアドバイス

地域や人の繋がりを大切にすることで、農地、機械、栽培技術など多方面において、ご支援くださる方々と出会えると思います。

農機具類は高価なため、初期投資は、必要最小限にとどめ、その後、補助制度

やリース事業などを活用してみてもいいでしょうか。

○ 指導機関からのひとこと

I ターン就農後、松山の中山間地域で、有機 JAS 認証制度を活用し、水稲と野菜を栽培しています。

特に水稲栽培に対する熱意が強く、制度資金等を活用し、着々と水稲関係の機械を購入し、地域の仲間と栽培技術の向上を目指す姿は、新規就農者の模範となっています。また、河野さんの人柄と農業に対する熱意は、地域の方からも高く評価されています。今後は、地域のリーダーとして活躍することを期待しています。

執筆機関

中予地方局農業振興課地域農業育成室
電話番号 089-909-8762



水田の除草作業